

# コロナ禍に「学ぶ権利」を奪う高校つぶしは撤回を 一島本高校・茨田高校・泉鳥取高校の存続を求める署名

大阪府教育委員会は、8月30日の教育委員会会議で「府立学校条例、再編整備計画に基づく令和3年度実施対象校（案）」を示し、「様々な意見を踏まえ11月の教育委員会会議で最終決定する」としました。その内容は「3年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況が続いている」ことを理由に、島本高校、茨田高校、泉鳥取高校の3つの府立高校を募集停止し、島本高校は阿武野高校に、茨田高校は野崎高校に、泉鳥取高校はりんくう翔南高校に、それぞれ「機能統合」というものです。

これは、長引くコロナ禍のもと府民の生活がますます厳しさを増しているさなかに、府の責任を放棄し、地域で重要な役割を果たしている高校を廃校にし、子どもたちの「学ぶ権利」を侵害するとともに、地域の活力を低下させる暴挙であり、ただちに撤回すべきです。

そもそも子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている府立高校の定員にゆとりがあるのは当たり前です。府教委は毎年の生徒募集にあたって、公立・私立の募集数の合計が進学予定者数を上回ることを確認しており、一定の学校が「定員に満たない状況」となるのは制度上の必然です。「進学したいのに行き場がない生徒」を出さないためのセーフティネットを理由に学校をつぶすなど何の道理もありません。2014年に通学区が撤廃され、府内全域で偏差値による競争と序列化がすすめられたもと、府の周辺部に位置する学校や、高校進学を希望する子どもたちの「最後の砦」となる学校が次々と廃校の対象にされています。地域の学校として重要な役割を果たしている高校をなくせば、「近くに通える学校がなくなる」「高額に通学費が払えない」など、子どもたちの「学ぶ権利」が侵害され、地域社会の地盤沈下にもつながります。少子化を口実に効率優先で学校をつぶすのではなく、少子化をチャンスと捉え、一人ひとりに行き届いた教育の実現に向けて、少人数学級の実施、学校規模の縮小など教育条件の改善こそ行うべきです。

以上のことから下記について強く要請します。

## 記

1. 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画（2019年度～2023年度）」を抜本的に見直し、「府立高校・大阪市立高校あわせて8校程度の募集停止」方針を撤回すること。その具体化である大阪府立島本高校・茨田高校・泉鳥取高校の募集停止案を撤回し、3校を存続させること。
2. 「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」としている大阪府立学校条例を抜本的に見直し、「定員」を理由にした高校つぶしは行わないこと。
3. 「少子化」をチャンスと捉え、「20人学級」など少人数学級の実現、学校規模の縮小など、すべての府立高校の教育条件を改善すること。

大阪府教育委員会  
教育長 橋本正司 様

年 月 日

氏名	住所